

# 生活リハビリテーションセンターだより

## ラグビー日本代表選手



## 健康福祉プラザに訪問!

～当センターの利用者様とも交流を深める～



セレモニーに引き続いてプラザ利用者との交流として、当センターのプログラムを見学に来られました。ちょうどトレーニング室では『片麻痺セルフケア教室』の最中で、利用者さんと選手が並んでトレーニングマシンでトレーニングしながらリハビリの様子などについて話をする場面がありました。案内役の中岡さんから田村選手（日本の司令塔!）に「こちらの利用者さんの夫さんがラグビーの大ファンで、今日のことをとても喜んでおられるみたいです。」と紹介すると、その利用者さんから「私はラグビー興味ないわ。」と驚きの発言が飛び出し、中岡さんから「選手の目の前でそんな・・・」とのツッコミに選手もみんな大笑い! 終始和やかな雰囲気、最後には全員で記念撮影を行い、大変貴重な機会となりました。今回の選手の訪問で、今年日本で開催されるラグビーワールドカップへの関心が高まった方も多かったのではないのでしょうか。選手への親近感がわき、応援しようとの機運が高まる1日となったと思われます。ご来館くださった選手の皆様、歓迎セレモニーにご協力くださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

7月30日(火)、ラグビー日本代表選手8名が健康福祉プラザに来館されました。歓迎セレモニーの会場となった1階ホールには選手の姿を一目見ようと大勢の方が集まりました。ホールにはマスコミ関係者も来られるなど、選手が到着する前から大盛り上がりです。歓迎セレモニーの司会進行は、自らも高校時代ラグビー部に所属していた当センター中岡さんが「願ってもいなかった大仕事!」とやや興奮気味にマイクを握り、熱いトークとともに選手団をお迎えしました。トンブソン・ルーク、アマナキ・レレイ・マフィ、中村亮土、ウィリアム・トゥポウ、田村優、松島幸太郎、堀越康介、木津悠輔の各選手が・・・試合中継やテレビCMなどで見られた日に焼けた大男がホールに入ると、選手の迫力とオーラで空気は一変です。ベルデさかいの利用者さんからの花束贈呈や中村選手からの挨拶に大きな拍手が沸き起こりました。セレモニー終了後には、ラグビーは紳士のスポーツといわれる通り、選手たちは気さくに会話、写真撮影、握手に応じていました。



## 平成30年度利用者アンケート結果について

当センターでは、自立訓練を利用された方々を対象に利用者満足度調査を行っています。平成30年度は、新たにご家族に対してもアンケート調査を実施しました。調査は、ご意見をいただく時期を一定にするために利用終了時に行っています。平成30年度の利用終了者は47名で、その内34名の方々より回答をいただくことができました（回収率72.3%）。また、同居されている37のご家族の内、22のご家族より回答をいただくことができました（回収率59.5%）。

利用者からは、接遇（設問⑥）、相談のしやすさや要望への対応（設問⑩、⑮）などでは比較的高い評価をいただきましたが、当事者・家族同士の交流機会（設問⑮）については対応が不十分とのご意見をいただくことができました。また、全体的な評価としてセンター利用に対する満足度（設問⑯）については、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が全体の88.2%という結果となりました。

利用者のご家族からは、利用者と同様に接遇（設問⑥）においては高い評価をいただけましたが、当事者・

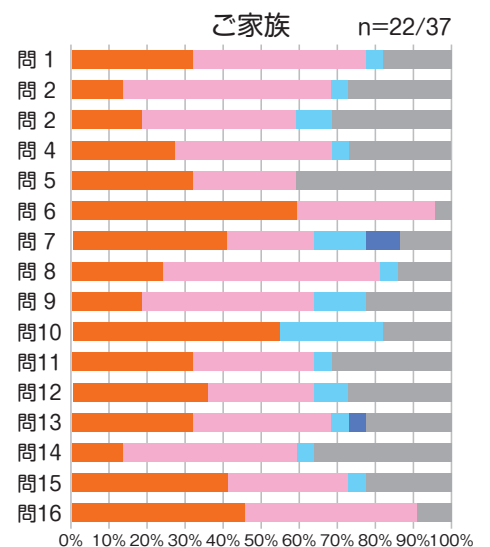
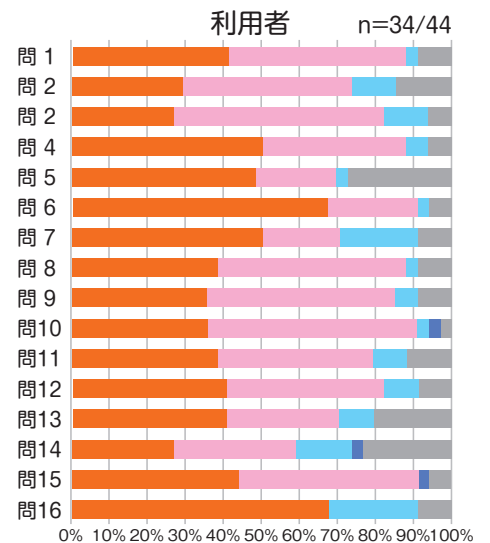
家族同士の交流機会（設問⑮）については、対応が不十分とのご意見をいただきました。その他、訓練プログラムの内容など実際に体験されていない項目については「わからない」と回答された方が多く、センターでのプログラム内容や緊急時の対応方法など十分にお知らせできていない状況が明らかになりました。また、全体的な評価としてセンター利用に対する満足度（設問⑯）については、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が全体の90.9%という結果となりました。

この結果をもとに、まずは利用者・ご家族同士の交流機会やご家族に対して支援内容などについての細やかな説明などに取り組んでいきたいと考えます。

今回の利用者満足度調査においてもアンケート回収率の通り、全ての利用者・ご家族からの意見を伺うことはできませんでしたが、日々の支援の中でもご意見などをいただきながら、職員一同、利用者、ご家族様からのご期待にお応えできるようさらなるサービスの充実に努めていきたいと思っております。

### アンケート設問

- 問 1：利用者の状況に合わせた訓練活動が行われている
- 問 2：地域生活における社会性（生活技能）を身につけられるような活動が行われている
- 問 3：利用者や家族が地域生活の方法として参考になるようなプログラムになっている
- 問 4：他の人に知られたくないことの秘密を守るなど、プライバシーが守られている
- 問 5：緊急時（災害・病気・けが）への対応は迅速で、適切である
- 問 6：職員は、利用者・家族に丁寧に接している
- 問 7：（利用者は）生活リハビリテーションセンターに行くことを楽しみにしている
- 問 8：環境整備など利用者の安全に配慮した訓練が行われている
- 問 9：利用者の意欲を促すような訓練プログラム・訓練器具が用意されている
- 問10：利用者・家族に関する気がかりな点や悩みなどについて、職員に気軽に相談できる
- 問11：訓練終了後の進路やリハビリテーションに関する事等、必要に応じて情報提供・説明がある
- 問12：障害への対応や訓練終了後の進路を考えるとときに、職員は適切な情報を提供し、また親身になって相談にのってくれる
- 問13：家族の精神面を支えるようなサポートがある（相談・共感・情報提供等）
- 問14：当事者・家族同士の交流の機会が十分ある
- 問15：職員は不満や要望に対しきちんと対応している
- 問16：生活リハビリテーションセンターのサービスを利用したことに満足している



■よくあてはまる ■あてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



## 研修会報告

令和元年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第1回研修会

# 「事例から学ぶ高次脳機能障害のある方の就労支援」

6月5日(水)に、今年度最初の支援普及事業研修会を開催しました。まず当センターの作業療法士より「高次脳機能障害者の就労場面で起こりやすい課題」について説明を行いました。その後、就労移行支援事業所「クロスジョブ阿倍野」の辻氏より復職支援の事例について、就労移行支援事業所の役割と医療機関退院から復職に至るまでの支援経過を詳しく紹介いただきました。また、障害者就業・生活支援センター「エマリス堺」の大内氏からは、新規就労支援の事例について、



当センターとの連携や職場実習において行った具体的な調整などをお話しいただきました。定員を大幅に超える申し込みがあり当日の参加をお断りさせていただいた方もあり、高次脳機能障害者の就労支援に対する関心の高さが伺えました。



クロスジョブ阿倍野  
辻氏



エマリス堺  
大内氏

## 妻の会 (第1回学習懇談会)



ました。終了後「子どもの年齢が同じくらい」「家が近く」「夫同士が仲良くしている」といった共通点で仲良くなられ、困った時や悩んだ時などに相談できるつながりができたようでした。また、「妻たち」がお話で盛り上がっている間、「夫たち」と「子どもたち」が、ベビーカステラを焼いて差し入れしてくださいました。愛情のこもった甘くておいしい差し入れに、ホッと場も和んだようでした。

6月9日(日)に今年度第1回目の学習懇談会を実施しました。今回も、昨年度好評だった「妻の会」を行い、当日は12名の「妻」の方々が参加され、同じ立場だからこそ分かり合える話題で盛り上がっていました。一家の大黒柱である「夫」が受傷したことによる、不安や焦りなどを乗り越えてこられた先輩方の話を聞いたり、今現在リハビリを受けている同じ立場の方の話を聞いたり、悩んでいることを話したりされ、開始時はやや緊張の面持ちだった皆さんも終わりには笑顔が見られ





## 訓練プログラムのご紹介

### ～女性利用者交流会～

7月31日(水)第1回女性利用者交流会を行いました。当センターの自立訓練利用者は、男性が多く女性の割合は約2割程度となっています。このため、訓練参加時も女性同士で話すことや交流する機会が少ないことが課題となっていました。

そこで、今年度の取り組みの一つとして、月に1度ですが女性利用者同士の交流の機会を設けることにしました。病気やけがの後、日頃気になることや疑問などを



一緒に考えることや、楽しく交流することを1番の目的に、活動内容は参加者同士で自由に決めていくことにしています。第1回交流会参加者は7名でした。



当日は、日頃の生活の様子や日常生活上の困りごとや悩みごとについて話し合い、アドバイスや共感をしたりと話に花が咲きました。お茶やお菓子を食べながら、皆様終始笑顔で参加されていました。

参加後のアンケートでは、「いろんな方と話ができて良かった」や「これまでは訓練に参加して帰るということだけだったので、顔見知りできて生活リハに来るのが楽しみになった」などの感想をいただくことができました。

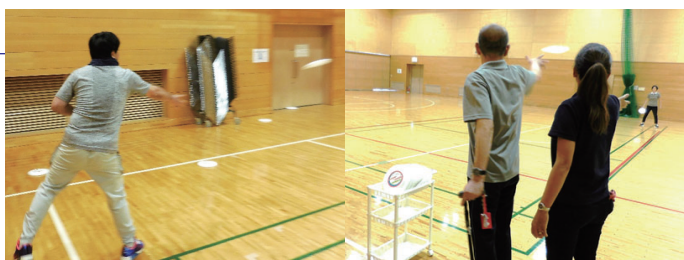
苦手な課題に取り組むといった訓練だけでなく、楽しく訓練に参加できるよう、今後もこのような有意義な活動を工夫していきたいと思えます。

### ～スポーツプログラム～

金曜日の4時間目は機能訓練の利用者を対象にしたスポーツプログラムを行っています。手や足に麻痺があると、どうしてもスポーツ活動から遠ざかってしまいがちです。そこで、身体障害があっても気軽にスポーツを楽しめるということを知っていただくためにこのプログラムを行っています。スポーツの種目は2ヶ月ごとに変わっていきますが、その1つとして取り組んでいるものにフライングディスクがあります。日本では



フリスビーという呼び方のほうが聞きなじみがあるかもしれませんが、世界大会も行われているほどメジャーな競技です。スポーツ特性として、片麻痺の場合



には、麻痺のない手でディスクを持って左右にうまく体重移動をしながらディスクを投げる競技ですので、片麻痺の方に適した運動と言えます。最初はなかなかまっすぐに投げるのができずに苦戦される方が多いですが、練習を重ねるごとに、コントロールが良くなり飛距離もどんどん伸びていきます。スポーツプログラムを通じて楽しく運動しながら、上手な体の使い方を学ぶことや利用者間の交流を深めていけるような機会になればと思っています。そして、当センターを卒業した後もスポーツを楽しんでいただき、社会参加の幅が広がることを願っています。

## 堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00～17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>